



さが さんが

第 九三 号

平成 二九 年

西 曆 二〇一七 年

春 彼 岸 三 月 号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五・六三一・二二七二

FAX 六三二・五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net

あなたはどちらが良いですか？

健康で過ごせたが短命な人生と、長生きだが病氣から離れられない人生と。

なるほど、どちらもイヤですか。

おっしゃるとおりですね。私でも、健康で長生きしたいと思います。

それでは、健康で長生きだけれど悔いだらけの人生と、病気で短命だったけれど悔いのない人生とでは、いかがでしょう。

なるほど、どちらもイヤですか。

おっしゃるとおりですよ。私も健康で長生きして、悔いのない人生を送りたいと願っています。



さてさて、ところが現実には、そうは問屋が卸してくれないこと、みなさまも重々ご承知でしょう。

それでは、あなたはどんな人生なら、許すことができるでしょうか。

自分勝手に生きたいわけでもないのに、なかなかうまくいかなくて苦しんでしまう。それは、「私たちの人生は、もともと自分の思い通りにはいかないからなのだ」と、お釈迦さまは喝破されました。

ただ、私たちはそういった人生を生きているからこそ、それを輝かせよう、たいせつにしよう、と思うことができるのですね。もしも桜が永遠に咲いていれば、私たちはその美しさを感じることはないでしょう。それとおなじです。

では、あらためておうかがいしますが、どんな人生だったら・・・どんな生き方だったら・・・。

仏事の小窓

お焼香は、何回しますか？



ご葬儀や法事などにお参りして、お焼香をされる機会はあるかと思えます。

そんなとき、ふと考えてしまうことはないでしょうか。「何回すれば良いのだろうか？」と。

インターネットで検索すると、「1回から3回」という答えが目立ちます。曹洞宗の和尚さんは、じつは「2回」です。

はじめに手を合わせ、1度目はお香を目の高さまで掲げ、念じてから香炉にくべます。2度目は高く掲げることなく、そのまま焚きます。そして最後にもういちど手を合わせます。

敬虔な気持ちでおこなう焼香は、仏さまをたたえたいせつな儀礼であり、その福德を故人にふりむける意味があります。1回から3回という答えは、もちろんどれも間違いではありませんが、もしよろしければ、2回と覚えてください。これでもう、迷うことなくお参りしていただけます。

トイレが新しくなりました

座敷の便器が、すべてウォシュレット付きの洋式になりました。女性用に3つ、男性用に1つです。

また、滑りやすかったお手洗いの床も、工務店さんが滑りにくい工夫をしてくださいました。お参りの折に、快適にお使いいただければありがたいと思います。

住職の弟子が大役を受けます



東運寺で四年前に晋山式が行われたとき、若い和尚さんが大きな声で禅問答をしていたことを、ご記憶の方もおられるとおもいます。

これは首座（しゅそ）といって、曹洞宗でお坊さんの階段をひとつ登る、一生に一度しかできない、とても重要な役です。そしてこのたび、京都市北区のお寺で五月に行われる晋山式で、住職の子の一人が、この役を任されることになりました。

まだまだひよっこではありますが、みなさまには暖かく見守っていただければ幸いです。



↑ ホームページこちらからも

東運寺ホームページは→